

## 国際化学肥料ニュース（2022年9月）

### 肥料業界の2022年9月動態

- \* 8月末に東南アジア数か国が行った塩化加里の国際入札結果が判明された。バングラディッシュの BADC 社が 8 月 30 日に行った国際入札には 9 件の応札があり、最低応札価格がカナダ Canpotex の CFR940 ドル/トンである。スリランカ政府の 4 万トン塩化加里の入札に最低応札価格が CFR950 ドル/トンである。インドネシアの pupuk 社が 8 月 31 日に行った 5 万トン塩化加里の入札にはベラルーシ BPC 社は CFR800 ドル/トンで落札した。9 月上旬現在、CFR 東南アジアの塩化加里価格が 940~950 ドル/トンまで下がってきた。
  
- \* アメリカの CF Fertilizers 社はイギリス Billingham 工場のアンモニア合成ラインを一時停止する意向を発表した。ただし、輸入アンモニアを原料にして、硝安およびその他の硝酸塩が生産を続け、今年以内にすべてのアンモニアと硝酸の契約、および硝安など窒素肥料の注文を履行すると言い加えた。アンモニア合成ラインを停止させる理由は天然ガスの価格高騰で、Billingham 工場のアンモニア生産の限界コストが 2000 ポンド/トンを超えた。
  
- \* 8 月 30 日から行い、9 月 9 日締め切りのインド RCF 社の今年 4 回目の尿素国際入札の応札結果が判明した。応札数量 226 万トン、最低応札価格は CFR 西海岸 668.15 ドル/トン、CFR 東海岸 675.25 ドル/トン、ともに OQ Trading 社からの応札である。7 月 20 日開札された前回の尿素国際入札に比べ、最低応札価格が 148~158 ドル/トン高くなっている。
  
- \* インド化学工業と化学肥料省の Mansukh Mandaviya 長官は国際乳業フォーラムに於いてインド政府が肥料会社に対して今年の北西季節風（ラビ）期間に化学肥料の小売価格を引き上げること認めないと発表した。インドの小麦、大麦などの栽培が 11 月から始まるので、政府はもうすぐ今年冬季の DAP と塩化加里の補助金を確定し、発表するとも述べた。インド政府は化学肥料の国内販売価格を抑えるために毎年化学肥料に多額の補助金を出している。
  
- \* ロシアは国連の仲介でアンモニアの輸出が再開することになります。ヨーロッパと北アフリカに月間 17 万トンのアンモニアを輸出する計画である。

\* 中国税関の速報によれば、2022年8月の中国化学肥料輸出量が0.4%減の277万トン、その内訳は尿素が34.6%増の35万トン、硫安が104.6%増の133万トン、DAPが5.5%減の52万トン、MAPが71.4%減の16万トン。尿素輸出量のうち、パキスタン向けの10万トンとビルマ向けの2.6万トンは政府間の援助数量である。

7月から尿素、DAPとMAPの輸出が「法定検査」に数量割当制を導入して、各メーカーが割当られた数量を早めに輸出する動きがあるため、尿素とDAPの輸出数量が急増した。なお、1~8月の化学肥料輸出量が37.9%減の1413万トン、そのうち尿素が58.1%減の123万トン、硫安が11.2%増の703万トン、DAPが54.7%減の215万トン、MAPが62%減の119万トン。

2022年8月の中国化学肥料輸入量が90%増の95万トン、その内訳は塩化加里が108.1%増の77万トン、NPK化成肥料が36.4%増の15万トン。1~8月の化学肥料輸入量が3.1%減の628万トン、そのうち塩化加里が1.3%増の551万トン、NPK化成肥料が32.9%減の59万トン。

\* インドRCF社の今年4回目の尿素国際入札の購入数量を判明した。契約した数量は87.4万トン、大部分が中東産であるが、中国尿素も10~15万トン含まれている。

\* 9月15日付のバングラデシュ新聞報道によれば、バングラデシュ政府財政部がカナダから5万トン塩化加里とモロッコから4万トンDAPの輸入に総額6650万ドルの外貨支出を許可した。

\* 9月第3週（12~18日）の尿素国際相場はインドの尿素国際入札の影響が薄くなり、若干の値下げとなる。今年4回目のインドRCF社の尿素国際入札は応札価格の高騰で、契約数量が87.4万トンに留まった。中東尿素が高値で売り込むことに失敗して、3週間ぶりに値下げに転じた。

西半球ではEUが天然ガスのショックが沈静していき、尿素価格が幾分下がった。場所にもよるが、CFR780ドル台後半から800ドル台半ばであった。ブラジルでは、市場の軟化を感じ、多くの流通業者と輸入業者が市場から一時撤退した。その結果、主にロシアとイランからのオファーが減少し、中東からの出荷も減少する傾向である。アメリカではオフシーズンに入り、CFR Nolaは先週の高値から65ドル/トンほど下落した。ただし、EUの高い天然ガス価格および予想される南米とインドの需要が、今後数週間で価格を下支えするだろう。

\* 9月19日、ロシアUralChem社のCEOはアフリカの「友好国」に無償で化学肥料を提供すると発表した。最初の25,000トンはトーゴに送る予定である。9月16日ロシアのプーチン大統領はウズベキスタンに開催された上海協力機構のサミットに西側の制裁

でロシアの港に滞留している 30 万トンの化学肥料を発展途上国に無償で提供すると述べた。今回 UralChem 社の行動はその指示に従うものと推測される。

- \* カナダの Canpotex 社はインドの Indian Potash Limited 社 (IPL)、Coromandel International Limited 社 (CIL) および Chambal Fertilizers Chemicals Limited 社 (CFCL) の 3 社との間に 2023~2025 年の 3 年間、毎年 50 万トン以上の塩化加里を販売する覚書を締結した。具体的な数量と価格は個別に決めるという。インドは塩化加里の輸入先はほとんどロシアとベラルーシであるため、今回カナダ Canpotex 社の行動は西側がロシアとベラルーシに対する経済制裁の一環と考えられる。
- \* ラオスは東南アジアの加里生産・輸出大国になりつつある。2022 年 1~8 月中国に 40.57 万トン、1~7 月インドネシアに 14 万トン、1~6 月マレーシアに 2.7 万トンの塩化加里を輸出した。ラオスには豊富な加里資源があり、2010 年から中国資本と技術を導入して、加里資源の開発を始めた。2019 年から塩化加里の輸出を始めた。
- \* 今年に入ってから米ドルに対する通貨安、原材料コストの上昇、および最終製品の販売不調により、韓国、中国、台湾、および日本のアンモニアユーザーは、アンモニア輸入量を削減した。1~9 月の東アジア地域（韓国、中国、台湾、日本の 4 か国と地域）のアンモニア輸入量が 117 万トン、昨年の 246 万トンより 53%減少した。その代わりにロシア産アンモニアの輸出が制裁されている現状では、中東と東南アジア、オーストラリア産アンモニアは EU への輸出が大きく増えた。

## 大手各社の営業業績

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

#### その他

- \* 中国雲南省の中小りん酸肥料メーカー 30 数社は雲南省政府と昆明税関に要望書を提出して、過リン酸石灰や重過リン酸石灰のような非りん安系のりん酸肥料輸出時に行う「法定検査」を速やかに行うことを強く要請する。

雲南省は中国の主要なりん酸肥料産地で、多くの中小企業が過リン酸石灰、重過リン酸石灰、熔燐などりん安以外のりん酸肥料を生産して、生産量の 8 割が輸出される。2021 年 10 月 15 日から実施された「法定検査」によって、りん酸肥料の輸出が止まり、在庫が膨らんだほか、資金繰りができず、赤字企業が続出している。雲南省化学工業協会の調査結果によれば、8 月末現在に 24 社が稼働停止、11 社が大幅減産、在庫量 42 万トンに膨らんできた。

ただし、中国政府と税関からは「輸出申請の企業と件数が多く、実験室の検査分析能力が不足で、検査期間が長くなることが避けられない。申請する企業は自身の状況および市場需給に合わせて、業務を調整するようにして下さい」と回答しただけで、輸出緩和の兆しが見られない。

- \* 9月17日、国連事務総長アントニオ・グテーレス氏はロシア通信社のインタビューに応じ、ロシアの食糧と化学肥料の輸出が世界の食糧不足の解消に必要不可欠で、国連がその輸出を協力すると回答した。すでにEUの指導者たちと接触して、オランダのロッテルダム港、フィンランドのコトカ港が国連の呼びかけに応じて、ロシアの食糧と化学肥料を受け入れる用意があると発表した。また、ベルギーのアントワープ港、ドイツのハンブルク港とも相談している。
- \* 9月15日のロシア新聞は、ロシア政府が化学肥料と石炭に対して、輸出関税を徴収する考えがあると報道した。ロシアの財政赤字を補填するために、ロシア財務省はすでに化学肥料輸出に一律12%の輸出関税を徴収することを提案している。また、石炭の輸出にも輸出関税を徴収するという。
- \* 9月20日付のベトナム新聞報道によれば、ベトナム政府は9月7日から輸入されるDAPとMAPに対する特別輸入関税を撤廃した。ベトナムは国内のDAPとMAP肥料産業を保護するために、主に中国から輸入されるDAPとMAPに対して、2018年3月7日から特別輸入関税を徴収することになった。しかし、2022年に入ってから国内DAPとMAPの価格が高騰し、安定供給を保障するために輸入関税の撤廃を決めた。
- \* 中国税関からの発表によれば、9月に天津税関が化学肥料の密輸取締特別行動を実施し、24件の化学肥料密輸を摘発して、密輸数量8.3万トン、金額1.6億人民元（約2300万ドル）である。中国政府は2021年10月15日から化学肥料の輸出に「法定検査」を実施し、その輸出を厳しく規制しているが、一部の企業と商社が「法定検査」を免れるように通関時に品名と税番を偽り、化学肥料を輸出しようとしている。中国税関がこのような行為を密輸と認定し、貨物を没収するほか、関係者を逮捕して、刑事案件として処理するという。
- \* オーストリアのBorealis社とVERBUND社は共同でグリーン水素プロジェクトを計画している。その計画は再生可能なエネルギー源からの電力を使用して、工業用電解プラント(60 MW)で水を分解してグリーン水素を生成する。生成されるグリーン水素は、オーストリアのlinz市にあるBorealis社の事業所で、肥料、メラミン、工業用窒素の生産に使用される。また、水の電気分解によって生成された酸素は、同事業所の化

学品製造に直接使用される。グリーン水素プラントは 2025 年に操業を開始する予定で、年間 CO<sub>2</sub> 排出量を最大 90,000 トン削減するという。